

あい証券(東京都港区)は3月、証券CFD(差金決済取引)の本格的な取り扱いを契機に社名(旧社名I・V・Tインベストメント・バンキング)を変えた。インターネットに特化する会社があるなか、加藤丈典社長は「個別状況に対応します」と語り、電話による対面取引でのリスク管理のアドバースなど、きめ細かな顧客サービスを強調する。

証券CFD 本格スタート

顧客本位の「対面」特長

——なぜ今、社名変更なのですか。

◆証券CFDの本格的な取り扱いに合わせて、社名を3月10日、「あい証券」に変更しました。お客様に「愛される証券会社」という願いと同時に、お客様と「相伴って歩む」との思いを込めていま

——証券CFDとは？

◆CFDは海外で始まりました。日本にないがらにして、証拠金を元に国内外の株価の指数を参照して差金決済で売買する取引です。私たちの特長としてアジアの重要な株価指数の一つ、香港株

異なりリスクをコントロールできると考えています。

——電話による対面取引が特長なのです。

◆CFDの取り扱い状況を教えてください。

◆お客様にはコンピュータシステムを使い、個別の取引状況に応じてリスク管理のアドバースや、情報提供によるコンサルティングサービスを提供してまいります。土日、正月などを除

経験を積んだコンサルタントがおお客様の要請に応じて、市場情報を提供します。例えば、損をどこで切るといったリスク管理も入っています。

——今後の展開は？

◆私たちは国内の投資家向けに、経済成長著しい中国など海外投資の機会提供を目標にしています。今後は上海総合指数をCFDの銘柄で扱いたいと考えています。08年の世界的な金融危機は、プロでも対象と機会を間違えれば損をするという教訓を得ました。

右肩上がりの経済状況だった昔から「貯蓄から投資へ」と言われ続けてきましたが、厳しい市場環境に合った個人投資があると考えています。お客様の個人投資家はもちろん、私たち自身がリスク管理できる範囲内で商品をお勧めしていきます。



あい証券 加藤丈典社長

あい証券 本社・東京都港区▽2005年6月に設立▽資本金6億円▽従業員数36人(10年3月末現在)▽URLは<http://www.isec.jp>

のハンセン指数を扱っています。

企業の実際の経営内容は、なかなか財務諸表だけでは分かりません。市場全体の動きを示す指数などインデックス取引の方が、個別銘柄の株取引と

インターネットによる取引を開始しました。証券CFDは3月10日からネット

で取り扱いを始めましたが、おかげさまで初日から申し込みがきています。4月5日には対面取引を始めました。

——なぜ対面にこだわりますか。

◆ネットは自己責任で取引し、リスクを負うのが前提です。もちろん金融のプロは構いませんが、個人投資家が果たして何百倍というレバレッジをかけ、大きなリスクを負うのは、どうなのかと疑問を感じています。

トツプ群像

アントレプレナー奮闘記

【熊谷泰】